



Higashimurayama City International Friendship Association

# 東村山市国際友好協会 第106号

## 市制50周年式典で 表彰されました



会長 岩瀬 由明

今年で東村山市国際友好協会は創立37年目になります。1978年に東村山市とアメリカのミズーリ州インディペンデンス市（イ市）が姉妹都市を提携した際に市民主導の交流をして行くとの趣旨で設立されました。

主な事業は5年毎の周年に大人の交流を、間の4年間には学生の交流を行い、その他に広報紙の発行、英会話講座の開催、会員間の交流事業などを行っております。特に交流事業において大人も学生もそれぞれ大勢の人が両市の市民宅にホームステイして、お互いが第二の故郷と思えるような交流をしてまいりました。学生派遣においては東村山市の親善大使として相応しい子どもたちをとの願いから派遣する前の約半年に亘って一泊研修を含む派遣生研修を行っています。その結果派遣生やご家族から大きく成長し積極的になったなどの感想を頂いております。また派遣生同士の絆も深まり、多くのOB・OGの方が協会の事業に協力してくれてい

## 交流室フェスタ 開催される！

市民部市民相談・交流課主催の「交流室フェスタ」が昨年11月25日(火)から29日(土)まで交流室において開催され、当協会のPRをしました。

29日午後3時から友好協会アワーが開かれ、岩瀬会長より「イ市との36年に及ぶ歴史や日米合わせて千名以上の方が市民レベルの交流を続け、イ市ホストファミリーの親切なおもてなしに



## 当協会は会員を随時 募集しています

終わりに、昨年市制50周年にあたり功労団体として表彰されましたが、これもひとえに歴代の役員、委員および多くの関係者の皆様のご支援、ご協力のお陰と心より感謝申し上げます。今後50年、100年と歩み続けて行くようお力添えをお願い申し上げます。

## 昨年8月に逝去された ビル・チャーさんの思い出

ビル・チャー（Bill Shaw）さんとの最初の出会いは、1983年イ市親善訪問団団長としてジョアンナ夫人と来日した折、ホストをお引き受けした時でした。滞在中スーパーなど庶民の日常生活を見てもらうよう心掛けました。当時日本庭園造園について協議中で、日本姉妹都市委員長としてぜひ日本庭園を見学したいとのことで、駒込の六義園へご案内しました。チャー夫妻は、1998年20周年記念での訪問まで、7回ほど来日し市内に多くの友人がおります。

1984年日本庭園起工式に参加のため初めてイ市を訪問した時、滞在先のチャー宅で1年ぶりに再会し、本当のアメリカライフを満喫させてもらいました。以後チャー宅には数回お世話になり、イ市などを献身的に案内してくれたことを思い出します。多くの派遣学生もビルさんに子供や孫のようにかわいがられてお世話になりました。

ビルさんに最後にお会いしたのは、2013年、35周年でイ市を訪問した時。久しぶりの再会、涙で出迎えてくれました。帰り際に歩行補助器を使って玄関の外まで出て見送ってくれたのが心に残ります。ビルさんには、妻のジョアンナさん、2組の子息夫妻、5人の孫、13人のひ孫が残されていますが、お付き合いが続いていくことを念じます。



なお、ビルさんにお世話になった派遣生が中心となり、この1月25日市民センターにてスカイプを利用して奥様、ご子息とご一緒に「ビルさんを偲ぶ会」を行いました。(写真)

顧問 大野 茂

感動を覚えます」と挨拶がありました。続いてホームステイの様子や体験活動中の姿をまとめたプロモーションビデオを鑑賞しました。その後、昨年ホストファミリーを体験された西岡富士子さんが「事前にメールによる食事や趣味などの情報を交換して準備し、来日時の観光や家庭でのふれあいを通じて、私は米国人の娘が出来たようで楽しかった」と話されました。

また昨年派遣団員として参加した二人が体験談を披露しました。「異文化体験や米国人が持

た」(田中瑞生さん)「派遣前に人との接し方や話し方の研修などを重ねたことで渡米への不安が払拭され、イ市ではホストファミリーとの交流やコンサートへの招待などが楽しかった。この体験はとても貴重でした」(向井健太君)との話があり、和やかな内に散会となりました。

## お知らせ

H27年度の総会・懇親会は、5月16日(土)2時より市民センターにて開催します。

## H27年度第32回イ市派遣団員募集

姉妹都市インディペンデンス市を訪問する団員(申込時、中学3年生から22歳)を募集します。

期間：8月5日(水)～20日(木)  
内容：ホームステイし、親善と交流を深める。  
申込期間：2月2日(月)～3月13日(金)  
なお、引率者の申込みは終了しています。  
事前説明会：3月6日(金)午後7時30分～市民センター第4会議室  
選考日：3月21日(土、祝)午後2時～市民センター第6会議室

※選考方法は、面接及び簡単な英会話など。詳細は当協会HP又は市報(2月1日発行)をご確認ください。

## イ市訪問団のホストファミリー募集

来日は6月10日(水)～24日(水)です。申込期間は1月15日(木)～3月9日(月)です。

※詳細は、当協会HP又は市報(1月15日発行)をご確認ください。

申込問合せ先 市民相談・交流課 (電話393-5111)

# 英会話講座が ABC♪ 国際交流を支える

昭和52年（1977）に

国際友好協会が設立され、当初は「英文手紙の書き方教室」「日常英会話の勉強会」などが開かれていました。次第に会員の英語に対する関心が高まり昭和56年9月に「第1回英会話講座（受講生27名）」が開講されました。以降、英会話委員会は講師の人選、受講者の募集・PR、教室の確保、テキストの選定、クリスマス講座、マナー講座の実施など年間を通して活動しています。

当講座は廉価な受講費用と講師がネイティブスピーカーであることから人気が高く、平成9年頃は週2回（水・木曜日、7講座開講）で前・後期共に175名定員になりました。その後会場の関係から現在の週1日（水曜日、4講座開講）となり、前・後期共に100名定員の規模で実施しています。これまでに延べ受講生は5千5百人を超えています。受講生の中にはイ市への関心を持つ方も多く、この講座を通してイ市との交流はもちろん、広く国際交流・理解への面においても貢献してくださっています。

「継続は力なり」英会話講座の益々の発展を期待しています。



ゴードン氏（上）英国出身 来日して13年 日本で家庭を築いています。

バナッサさん（下）豪州出身 来日して14年 日本文化にどっぷりひたっています。

## 和気あいあいの 合同クリスマス講座

英会話委員会の主催で昨年12月17日（水）午後7時から9時まで、市民センター会議室において合同クリスマス講座が開催されました。寒風の中役員・講師・受講生など総勢85名の方が参加されました。

まず初めに岩瀬会長から「通常の講座と異なった雰囲気の中で日頃養ったスキルを4名の講師との会話に活かして頂きたい」と挨拶がありました。続けて講師のゴードン氏、バナッサさん、



みんなでジングルベルを歌う♪

特別講師のキャメロン氏、グレッグ氏を中心にグループごとに趣味やスポーツの話が弾んだ後、ゲームなどを行いました。普段の講座と異なり、和んだ雰囲気の中で会話が盛り上がりました。最後にクリスマス会らしくジングルベルを合唱し、プレゼント抽選会を行いました。バナッサさんがサイコロを振り、ラッキーな人にLEDライトを贈って終了となりました。

## 交流深めた 産業まつり

53回目となる市民産業まつりが昨年11月8・9日の2日間開催されました。当協会は今回も焼きそばとキャンディレイを販



キャンディレイをかけてもらって

売しました。会員交流委員を中心に、会員有志や派遣生がお手伝いをして1日目は早々と完売。2日目のイベント会場は特別ゲストの日本エレキテル連合の出演でものすごい人出となり、昼過ぎには品物が売り切れしました。2日間の活動でPRパンフレットを配布し、当協会を市民の皆さんにアピールできたことや会員同士の交流の場が持てたことはとても有意義でした。

## コーヒーフレイク

### 各地に伝わる麦わら細工

ふるさと歴史館のロビーにイ市から贈られた麦わら人形と東村山に伝わる麦わら編みの蛸がごが並んで飾られています。よく見ると人形の帽子・小さな手籠と蛸かごの編み方が同じだと分かります。麦わら細工は世界中の麦生産地で自然発生的に作られ、各地域に多種多様な編み方と作品が伝わっています。アメリカにも蛸はいませんが、蛸狩りは日本独特の遊びです。同じ形

のかごが日本各地に伝わっています。蛸を愛でる気持から生まれた形なのでしょう。



麦わら人形

## あの人はいま

飯笹 俊幸

私が10期派遣生としてイ市を訪問する機会をいただいたのは高校1年生のこと。初の長期海外滞在、初訪米、初ホームステイと初めてづくしの3週間はあらゆるものが衝撃的で、将来の展望を大きく変える刺激に満ち溢れた時間となりました。強いカルチャーショックを受けつつ、温かく受け入れてくださったイ市の方々やアメリカという国の懐の深さにすっかり魅了された私は「またこの地に帰ってこよう」と強く決心しました。そして、帰国するや両親に「留学させてくれ」と頼みこみ、半年

にある高校へ晴れて転入学を果たしたの年齢差ではありませんが

たしたのはイ市から戻って約一年後のことでした。その後、大学院卒業までの9年間を彼の地で過ごし、現在は外資系コンサルティンク会社で世界中の同僚たちと共に人材育成に関わるプロジェクトに携わっています。社会人経験を積む度に、今の自分があるのは派遣プログラムのお蔭であるとしみじみ感じていました。そんな中、一昨年夏に派遣生OB会発足の案内状を頂き、人生が変わるきっかけを与えてくださった協会に遅滞きながら恩返しをしたいという想いが湧いてきました。すると、会の席上で派遣委員会の委員募集のお話があり、迷うことなく手を挙げました。昨年一年間、かなりの年齢差ではありますが

後輩にあたる31期生の選考から研修そして派遣までの過程に携わらせていただき、折にふれ派遣生と昔の自分を重ね合わせ、感慨深く感じておりました。協会関係者の方々と接する中で想いを強くしたことがあります。グローバル化が進む時代の到来を予測していたかのごとく、37年前から草の根の姉妹都市交流を展開し堅牢な友好の架け橋を守り続けてこられた諸先輩の想いを大切に継承すること。そして、更なる発展に繋げていけるよう、拙いながらも自身の持てるものを注ぎ込み、地域社会に貢献できるリーダー人材の輩出に力を入れていきたいと考えています。

## 訃報

去る11月21日、清水雅美氏（享年76歳）がご逝去されました。氏はイ市訪問団のホストファミリーや20周年公式訪問団員としてイ市との交流を深め、H25年より監事として協会発展のために貢献されてきました。ご冥福をお祈り申し上げます。

## 編集後記

今号では姉妹都市交流に携わることで、人と人のつながりが掛けがえのないものになることをお伝えできたのではないのでしょうか。世代を超え、37年間も続いていることの深さと重みを感じます。

## 人と人

発行：東村山市国際友好協会  
編集：広報委員会

東村山市本町 1-2-3  
東村山市役所内  
☎393-5111 内線2552・2553  
http://www.h-ifa.com/